

L[®] LOWRANCE

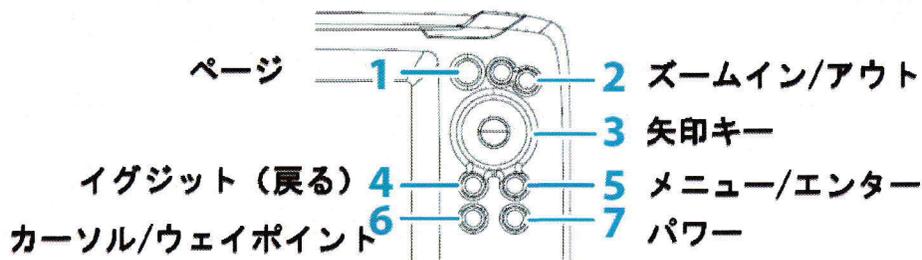
We Lead, We Find, You Win.™

H00K2-5/7/9/12

共通日本語解説書

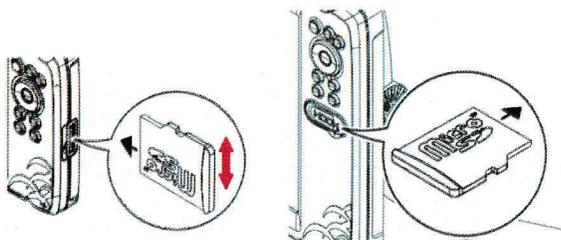


H00K2-5/7/9/12 簡単操作ガイド



1. キー操作

- 1 ページキー**
ページキーを押すとホームページが開きます。
- 2 ズームイン/アウト**
プロッター画面や魚探画面のズームキーとして使われます。＋を同時に押すと MOB ウェイポイントが作成され落水者救助モードとなります。
- 3 矢印キー**
各種の項目を選択したり、カーソルを移動させるときに使用します。
- 4 イグジット (戻る)**
開いたメニューやダイアログを閉じたり、元に戻るときに使用します。
- 5 メニュー/エンターキー**
メニューが表示されていないときにこのキーを押すと、メニューが表示されます。 矢印キーで項目を選んだ後、このキーで決定します。
- 6 カーソル/ウェイポイント**
プロッターのページでこのキーを押すと、カーソルの表示/非表示を切り替えることができます。また、どのページを表示していても、このキーでウェイポイントを保存できます。
- 7 パワー**
作動中にパワーキーを押すと、作業のジャンプ先が一覧表になった「システムコントロール」が開きます。また、このキーを長押しすることで電源をオフにすることができます。



マイクロ SD カードは、防水キャップを開いてから接点が奥になるように挿入して下さい。抜くときは矢印方向に少しスライドさせてから抜き取って下さい。

初めて電源を入れた時 (初期化した時)

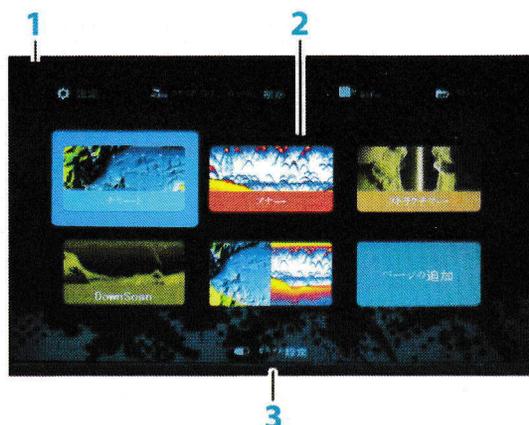


言語の選択

下向き矢印で日本語を選択しエンターキーを押して下さい。「この機器を第一航法装置として頼らずに政府発行の海図を用いて安全な航行を心がけて下さい。」という内容を含む警告文が表示されるので、エンターキーで右下の「同意します」をクリックして下さい。

ホームページ

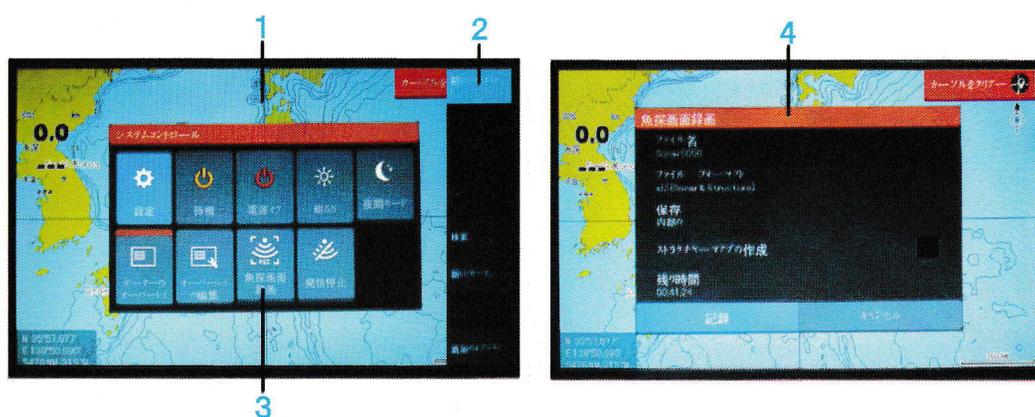
ページキーを押すとホームページが開きます。矢印キーでページを選択して、エンターキーで開きます。



- 1 ツールパネル 設定、ウェイポイント、情報、ファイルのアプリケーションを起動します。
- 2 ページアイコン 表示したいページのアイコンを選択します。
- 3 カスタム設定 カスタム設定されたページのスパナマークを選択して編集したり、Xマークを選択してページを消去します。

アプリケーションページ

パワーキーを押すと各種の項目にジャンプできる「システムコントロール」を開くことができます。



- 1 アプリケーションパネル
- 2 メニュー
- 3 システムコントロールダイアログ
パワーキーにワンタッチするだけでシステムコントロールのダイアログが開きます。
- 4 ダイアログ
ユーザーへの案内や、ユーザーからの入力を受け付けます。

システムに直結する個々のアプリケーションがパネル状に表示されます。
アプリケーションは全画面表示と、分割画面表示があり、全てのアプリケーションはホームページからアクセスすることができます。

カスタムページ

初期設定として、一つだけ分割画面表示が用意されていますが、ページの追加より、オリジナルの組み合わせで分割画面を簡単に作成することができます。

分割画面は一つだけオレンジ枠が表示され、キー操作によりコントロールできます。分割画面にカーソルが表示されている時は、カーソルキーを押して非表示にすると、矢印キーでオレンジ枠を移動できます。



2. 基本操作

システムコントロール

システムコントロールダイアログから、基本的なシステムの設定を速やかに行うことができます。パワーキーにワンタッチすることで、ジャンプ先を示す一覧表が表示されます。



機能を有効にする

矢印キーでアイコンを選択し、エンターキーを押すことにより機能が選択されます。

設定

「設定」では、アプリケーションを開いて各種の設定を行います。

電源オフ

電源のオン・オフは通常パワーキーで行いますが、システムコントロールのダイアログから、「電源オフ」アイコンにカーソルを合わせてエンターキーを押すことにより、電源を切ることもできます。

明るさ

画面の輝度はシステムコントロールの「明るさ」から調整することができます。また、パワ

キーを連打することでも調整可能です。

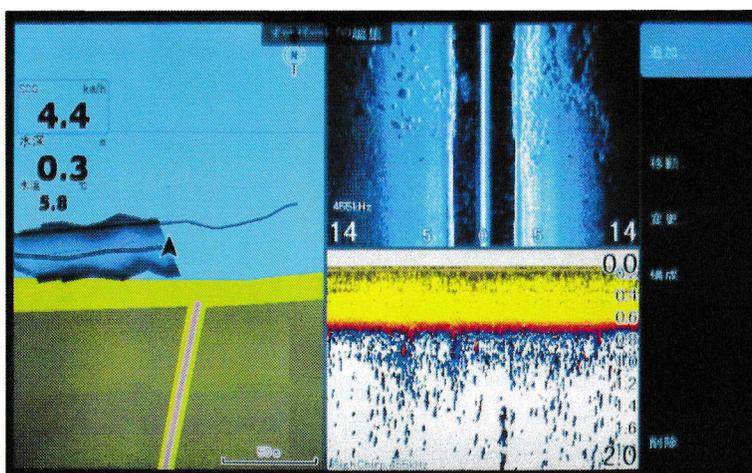
夜間モード

夜間や早朝の釣りでは「夜間モード」を選択するとカラーパレットやバックライトの輝度をダウンして見易くなります。一方、このモードが選択されていると画面がほとんど見えないため、故障と勘違いされる場合もあります。この場合は、「パワーキー」の連打で明るさをコントロールできます。

データのオーバーレイ

本器は全てのページにデータを上書き表示することができます。パワーキーを押してから「データのオーバーレイ」を選択してエンターキーを押すと、表示が有効となり、アイコン上部にオレンジのマークが表示されてオーバーレイが実行されていることを示します。

オーバーレイの編集



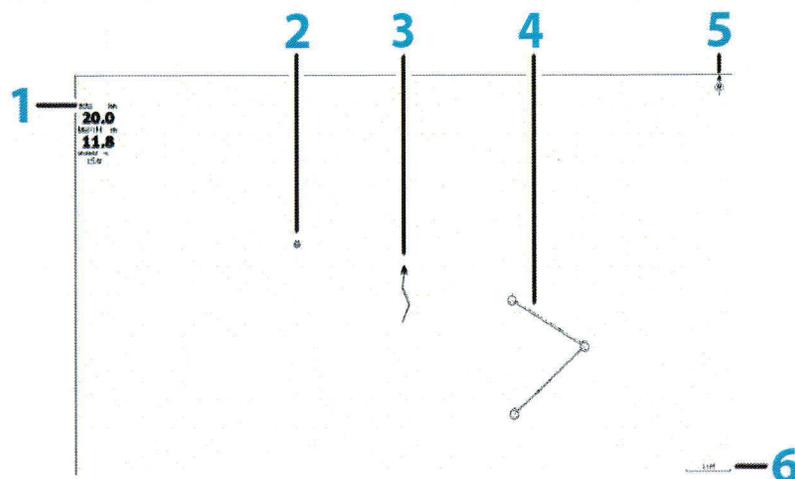
「オーバーレイの編集」を選択してエンターキーを押すと現在選択されている項目に青枠が表示されています。矢印キーで項目を選択してからズームキーで文字サイズの変更が出来ます。もう一度エンターキーを押すと、メニューバーから追加、移動、変更、構成、削除を実行できます。追加を選択するとリストの中から表示したいデータを追加できます。移動は矢印キーで希望する位置にデータを移動します。変更はリスト内の他のデータに変更できるので追加、削除の手間を省くことができます。構成からデジタル表示をアナログに変更したり、ベゼルによりデータに背景を付けられます。また、アナログメーターは、リミットによりフルスケールの設定等が行えます。

発信停止

同じ周波数で複数の魚探を使用すると、干渉ノイズを生じる場合があります。

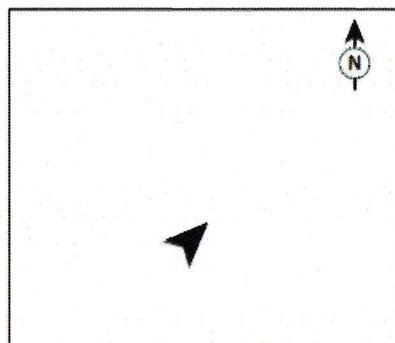
「発信停止」を選択してエンターキーを押すと、本器の出力のみ停止することができます。

プロッター機能付きのモデルは航跡の表示やポイントの登録、および任意のポイントを結んだ「ルート」を作製することができます。

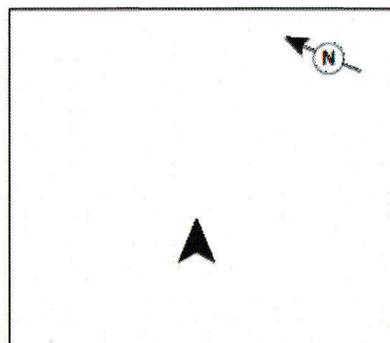


1. オーバーレイされたデータ
2. ウェイポイント
3. 航跡
4. ルート
5. 北方向指示
6. 縮尺

ズームキーを使って縮尺を変更したり、矢印キーで画像を上下左右に移動することができます。それぞれの項目の情報はカーソルを合わせることで表示され、メニューのオプションを選択できます。



北方上方表示

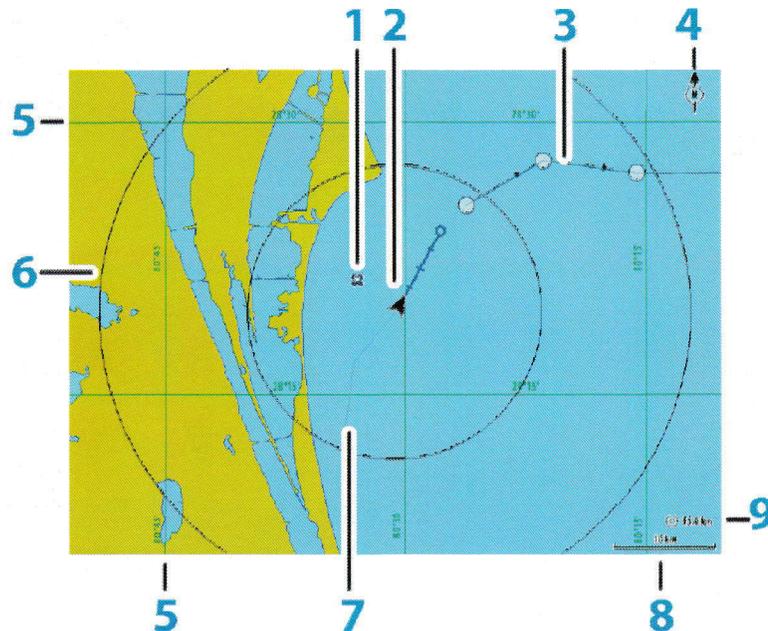


進行方向上方表示

GPSが衛星を補足すると自船の位置が矢印で表示され、衛星をロストすると?マークになります。「GPSのオプション」より地図の表示方向を選択することができますが、初期設定は「北方上方表示」となっています。エンターキーを押して「追加オプション」の「センターオフセット」を選択すると矢印の位置がオフセットされ進行方向のスペースが広がります。

4. チャート

チャート機能は、チャートデータの入ったカードを挿入してチャートパネル上に表示させ、ボートと陸地や島の位置関係を確認したり、航海のプランを立てたり、必要なルートの作成やウェイポイントを保存します。また、ストラクチャスキャンの画像をライブで上書きしたり、ストラクチャーマップを貼り付けることができます。



- | | |
|------------------------|---------------|
| 1. ウェイポイント | 6. レンジリング |
| 2. 自船矢印にオプションの船首延長線を追加 | 7. 航跡 |
| 3. ルート | 8. レンジスケール |
| 4. 北方向指示 | 9. レンジリングスケール |
| 5. グリッドライン | |

チャートソース

パワーキーを押してから、設定、チャートの順で開くと、チャートのソースから Lowrance と Navionics を切り替えることができます。

チャートスクロールモードとチャート固定モード

本器はカーソルが非表示の状態では GPS を補足すると、中央の矢印が自船位置を示し、ボートが移動しても地図全体がスクロールして自船は常に中央に表示されます。

矢印キーを操作するとカーソルが表示され、チャートは固定モードとなります。自船を示す矢印は固定された地図上を走り回ることになります。画面左下にはカーソルの位置を示す座標と、自船との距離が表示されます。なお、GPS を補足できていない場合は矢印が？マークに替わります。

新しいウェイポイント

カーソルが表示されている状態で、エンターキーを押して、新しいウェイポイントを選択してエンターキーを押すと、カーソルの位置にウェイポイントを保存したりウェイポイントの編集が行えます。

ナビ開始

カーソルが表示されている状態で、エンターキーを押して、ナビ開始を選択してエンターキーを押すと、現在位置からカーソルの交点まで航法指示を行います。

情報

カーソルが表示されている状態で、エンターキーを押し、情報を選択してエンターキーを押すと、カーソル地点に情報があれば内容が表示されます。

検索

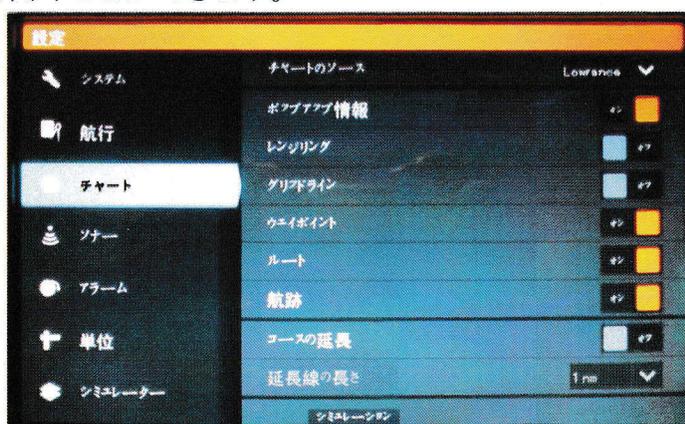
カーソルが表示されている状態で、エンターキーを押し、検索を選択してエンターキーを押すと、地図の項目あるいはCoordinate(座標)を選択できます。地図の項目を選択すると表示範囲内の各種項目が表示されます。項目を選んでからもう一度エンターキーを押すと、ナビ開始、表示、新しいウェイポイントを選択することができます。表示を選択するとチャート画面上のポイントにジャンプします。

新しいルート

カーソルが表示されている状態で、エンターキーを押し、新しいルートを選択するとルート作成モードに入ります。カーソルで位置を選定してからエンターキーを押すと次々にポイントを追加できます。最終ポイントを作製したらイグジットキーでルート作成を終了します。

追加のオプション

追加のオプションを選択するとオーバーレイのオフ、地図の表示方向、センターのオフセット、チャートオプションを開くことができます。



チャートの設定

パワーキーを押して、設定からチャートを開きます。

チャートのソース

Lowrance と Navionics を切り替えます。

ポップアップ情報

カーソルを合わせると吹き出しにより情報を表示します。

レンジリング

範囲円を表示します。

グリッドライン

緯線、経線を表示します。

ウェイポイント

ウェイポイントの表示、非表示を切り替えます。

ルート

ルートの表示、非表示を切り替えます。

航跡

航跡の表示、非表示を切り替えます。

コースの延長

進行方向を示す船首延長線を表示します。

延長線の長さ

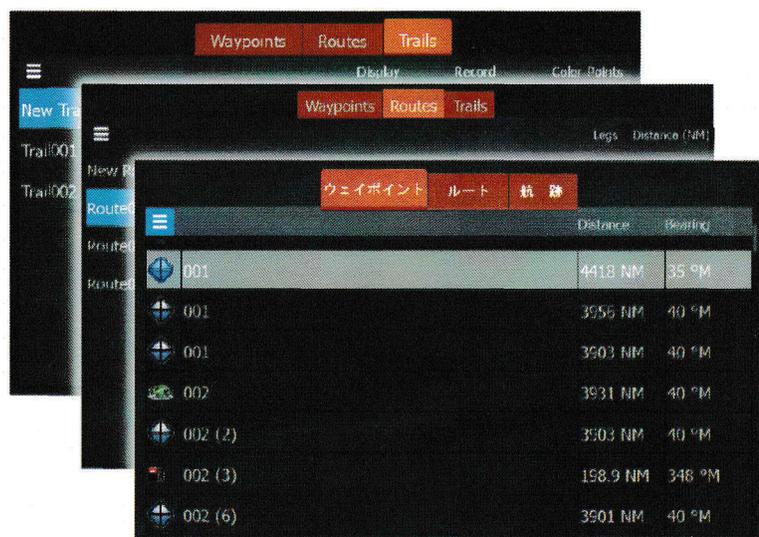
船首延長線の長さを選択します。

5. ウェイポイント、ルート、航跡

ウェイポイント、ルート、航跡のダイアログはメニューボタンを押してから矢印キーでホームページのメニューバーにあるウェイポイント、ルート、航跡を選択して、エンターキーで開きます。

ウェイポイント

ウェイポイントはチャート上またはプロッター上で自船の位置やカーソルの位置に記録したマークで、本体の不揮発性メモリーに座標が記憶されます。後日、この場所を訪れたり、複数のウェイポイントを繋いでルートを作製すると、画面上に簡易作図をしたり、ルートに沿った航法指示を得ることができます。



1. ウェイポイントの保存

ウェイポイントを保存するには、「カーソル/ウェイポイントキー」を長押しします。カーソルが表示されている場合はカーソルの位置に、非表示の場合は自船の位置に保存されます。エンターキーで決定して下さい。アイコンや名前を編集する場合は矢印キーとエンターキーで項目を編集し最後に保存をして下さい。

2. MOB マンオーバーボード

人が落水するなどの緊急時は、ズームキーの＋を同時に押すことで本器は自動的に「救助モード」に切り替わります。

- 自船の位置に MOB ウェイポイントが作製されます。
- 縮尺が最大限に拡大され、自船の位置を示す矢印が画面中央に表示されます。
- MOB ウェイポイントにカーソルが置かれ、この位置への航法指示が画面上に表示されます。救助モードを終了するには MOB ウェイポイントにカーソルを合わせ、エンターキーを押して MOB ウェイポイントを開いて下さい。矢印キーで削除を選び、エンターキーを押して下さい。

ルート

「ルート」とは航法指示を行うために複数の通過点を直線で結んだもので、航行禁止エリアなどを表示するための作図機能としても利用できます。

1. プロッター画面でエンターキーを押してから下向き矢印で「新しいルート」を選択して、もう一度エンターキーを押します。
2. カーソル/ウェイポイントキーを押してカーソルを有効にします。
3. 矢印キーを操作してカーソルを任意の地点まで移動します。
4. エンターキーでルートポイントを作製します。

5. 3-4の操作を繰り返しながらルートポイントを追加します。
6. ルートが完成したらイグジットキーを押すと作業が完了となり、ルートが保存されます。

航跡

自船が通過してきたポイントの集合体を「航跡」と呼びます。天候の急変で視界不良になった場合でも航跡をトレースすることで出港地点まで安全に戻ることができます。初期設定では、自動的に航跡が作成され、メモリー許容値まで航跡を描いた後、古い航跡から順に消滅します。航跡の自動作成機能は航跡のダイアログから停止することができます。メニューボタンを押して、上部メニューバーより、ウェイポイント、ルート、航跡を開いて下さい。一番右側に航跡のタブがありますので、矢印キーで選択してからエンターキーで開きます。「新しい・・・」を選択すると旧航跡は保存され、新たに航跡の描画が始まります。

ウェイポイント、ルート、航跡の編集

例えばウェイポイントを編集したいときは、ウェイポイントのタブが選択されている状態でエンターキーを押すと、下記メニューが表示されます。

- | | |
|---------------------|---|
| 新しい・・・ | 自船位置またはカーソル位置に新しいウェイポイントが作られます。 |
| 並べ替え | 初期設定では「名前」にセットされているのでウェイポイントの番号順に並んでいます。 |
| すべて削除 | 本体メモリーに保存されているウェイポイントをすべて削除します。復元できないので、あらかじめホームページの「ストレージ」からメモリーカードにエクスポートして下さい。 |
| 同一シンボルをすべて削除 | 選択されたシンボルと同一のポイントを全て削除します。 |
| 検索 | 条件を設定して検索します。 |

6. 航法指示

航法指示は特定のウェイポイントや、カーソルの位置に向かって的確な操舵の指示を行ったり、指定されたルートに沿って正しく航行できるように指示します。

カーソルを目的地に合わせたり、特定のウェイポイントやルート上に置いてからエンターキーを押すと「ナビ開始」の項目が表示されるので、下向き矢印で選択してから、もう一度エンターキーを押して下さい。

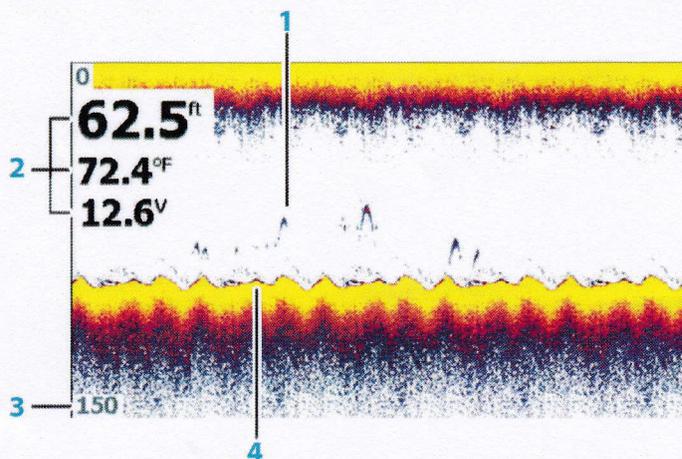
航法指示が始まるので、船首方向が目的地方位に一致するように操舵して下さい。

航法指示の終了はエンターキーを押してから「キャンセル」を選択し、再度エンターキーを

押して下さい。

7. ソナー

ソナーの機能は、水中と水底の情報を取得して、ルアー、魚の位置や水底のストラクチャーをディスプレイ上に表示することにあります。



- | | | | |
|---|-----------|---|-------|
| 1 | フィッシュアーチ | 3 | 水深レンジ |
| 2 | オーバーレイデータ | 4 | ボトム |

ズーム

ソナー画像の拡大は、**+**のズームキーで、任意の倍率となるようにズームすることができます。ズームレベルはパネルの右上と右下に現在表示されている水深スケールが現れます。

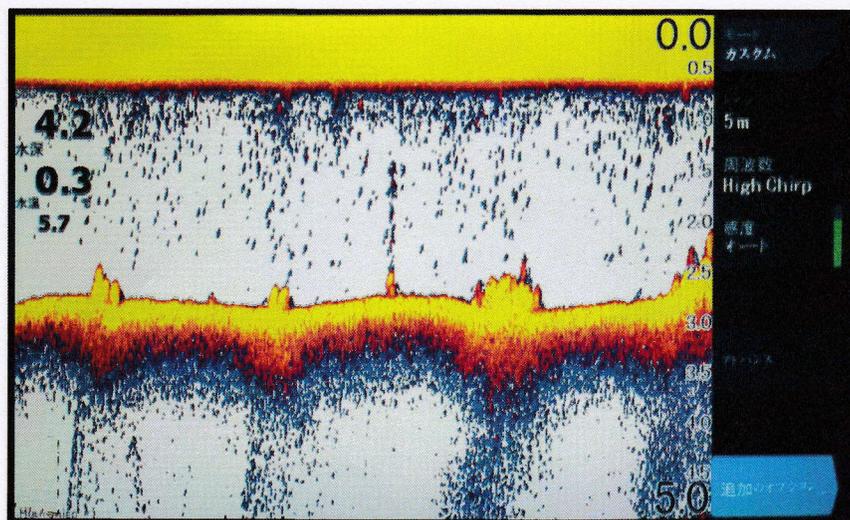
ヒストリー機能

魚探掛けして有望なエリアを発見したら、左向き矢印キーで魚探画面を巻き戻すことができます。魚やストラクチャーにカーソルを合わせてカーソルキーを長押しすると、ウェイポイントが保存されチャート画面に反映されます。

チャート上で、**船首延長線**をこのポイントに合わせてボートの正面にルアーをキャストすることで釣果の向上が期待できます。

カスタマイズ

魚探画面で**エンター**キーを押してから下向き矢印で「カスタム」を選択します。レンジ、周波数、感度の設定が手動で行えるようになります。



レンジ

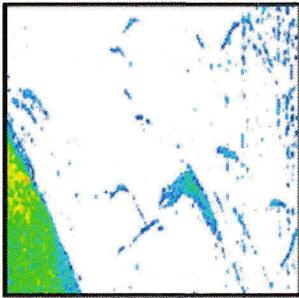
レンジをオートにすると、水深が激しく変化するリザーバーなどでは便利ですが移動の度に画像が小間切れになるので、予想される最大水深を手動でセットしたほうが連続表示となり、底の状態を理解しやすいです。

感度は画面を見ながら少しづつ上げて、ホワイトバックに青い斑点が出始めたらず少し戻す位に調整すると、ベイトやルアーを見逃しません。

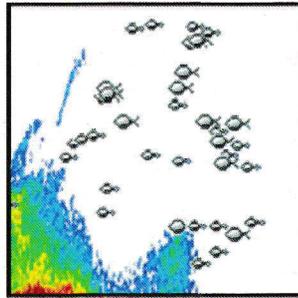
カラーラインはボトムが一番上の黄色の帯が一定の幅で表示されるように調整すると、ハードボトムで黄色の幅が広がり、マッディーなボトムでは狭くなったり消滅します。他社の魚探では、底質を知るためにレンジを大きくして二次反射を見ますが、大切な水中情報が圧縮されて見えなくなります。ロランスは二次反射の強度をカラーラインの幅に変換しているため、ボトムをズームして底質とベイトの関連を詳細に観察できるという特徴があります。

魚解析表示

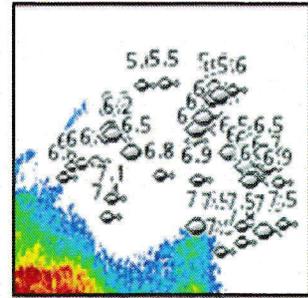
追加のオプションより魚解析表示の項目を選択すると、フィッシュアーチをそのまま表示する「オフ」、サイズに応じて大中小のIDで表示する「シンボル」、個別に水深表示を行う「水深」および「水深とシンボル」を選択することができます。フィッシュIDアラームを選択するとオレンジのマークが付加され、魚を発見したときにアラーム音を発生します。



オフ(フィッシュアーチ)



シンボル

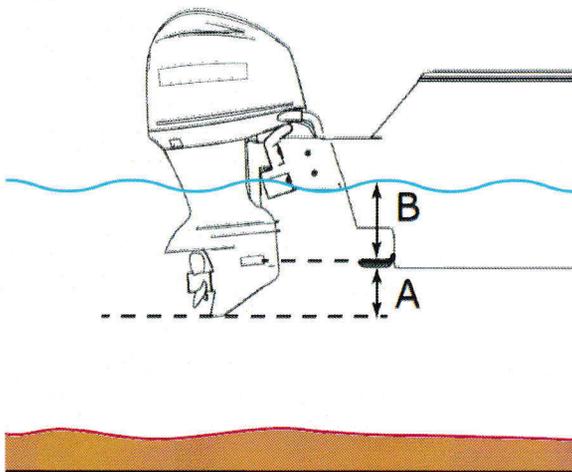


シンボルと水深

アドバンス

アドバンスから発射速度、スクロールスピード、ノイズ抑制、表層ノイズ、カラーラインを個別に手動設定できます。

水深のオフセット



パワーキーを押して「設定」から「ソナー」を開くと「水深のオフセット」を行うことができます。オフセットを行う理由は二通りが考えられます。通常、振動子は水中に常時浸っていないため、水面から底までの実水深を正確に表示させたい場合は、表示されている水深に振動子から水面までの距離Bをプラスする必要があります。また、船外機やトロールモーターがボトムにヒットする危険を避けるには、表示されている水深からAの値をマイナスする必要があります。

ダウンスキャンのオーバーレイ

魚探画面からエンターキーを押して、追加のオプションを選択すると、DownScan のオーバーレイを行うことができます。DownScan のオプションから透明度を調整すると、魚とストラクチャーや水性植物を見分けることができます。

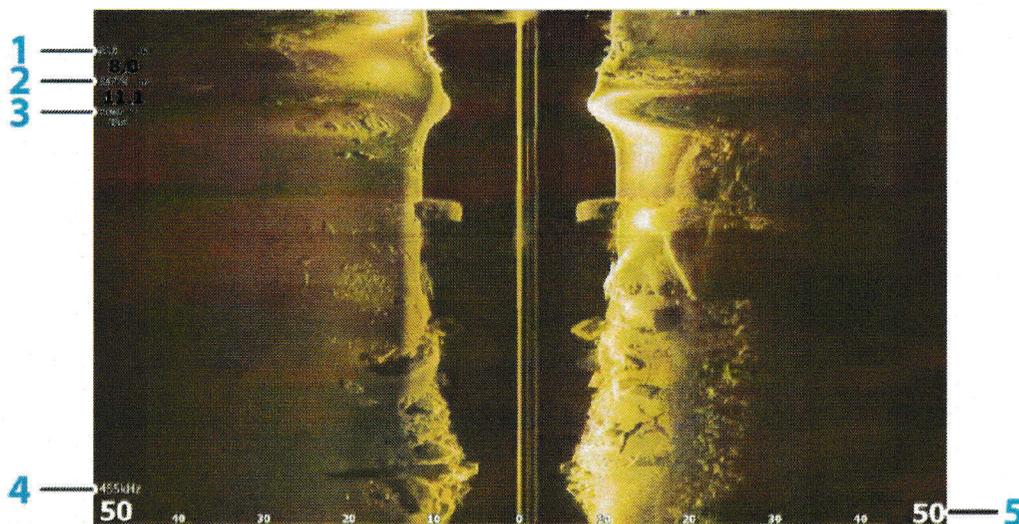
魚探画面の録画

パワーキーを押すと魚探画面の録画にジャンプすることができます。

ファイルフォーマットはストラクチャースキャンも録画する場合 s12 を選択して下さい。1時間あたり 1Gb のメモリーを消費します。リーフマスターや C-MAP ジェネシスで地形図を作成する場合は、s1g を選択して魚探画面だけを録画して下さい。4時間あたり 1Gb のメモリーを消費します。なおストラクチャーマップの作成にチェックを付けると s12 で録画する場合に自動的に (.smf) が作成され、できあがったファイルをチャート画面に貼り付けることができます。

8. ストラクチャースキャン HOOK2 TRIPLE

ストラクチャースキャンは HOOK2 TRIPLESHOT で利用できます。左右単独、左右同時の写真画質画像を表示します。中央の黒い部分はウォーターコラムと呼ばれ、水面からボトムまでの垂直情報を展開したもので、明るくなっている部分から外側が、ほぼ真下から左右の情報を表示しています。



1. 速度 2. 水深 3. 水温 4. 周波数 5. レンジ

カーソルキーの利用

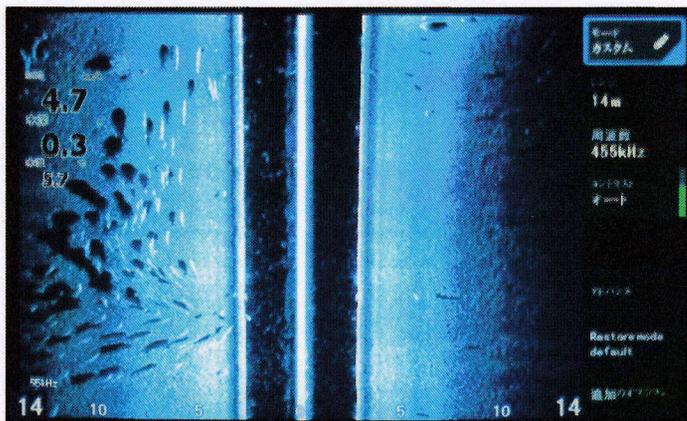
ストラクチャースキャンが作動中にカーソルキーを押すと、画像のスクロールが一時停止し、カーソルは中央に置かれます。下向き矢印キーを押すと画像を巻き戻すことができます。ストラクチャーや魚にカーソルを合わせて、ズームキーを押すとこのポイントを中心に拡大できます。また、カーソルキーを長押しすると、ウェイポイントが保存でき、このポイントはチャート画面に反映されます。カーソルキーのワンタッチで元の画像に復帰します。

ストラクチャースキャンの録画

パワーキーを押してシステムコントロールの中から「魚探画面の録画」を選択してエンターキーを押します。ファイルのフォーマットはs12を指定して、メモリーカードに記録して下さい。

ストラクチャースキャンの設定

エンターキーを押すと、初期設定ではオートモードになっています。エンターキーを押すとカスタムモードに切り替わり、レンジ、周波数、コントラストの調整が可能となります。マニュアルでレンジをセットする場合は、およそ水深の4倍を目安として下さい。周波数は15m以内を高い解像度で見たいときが800Khz、それ以上広いレンジでは455Khzを選んで下さい。アドバンスからは表層ノイズのフィルターを調整できます。また、追加のオプションからフリップ、レンジライン、パレット、ビューの設定が可能です。



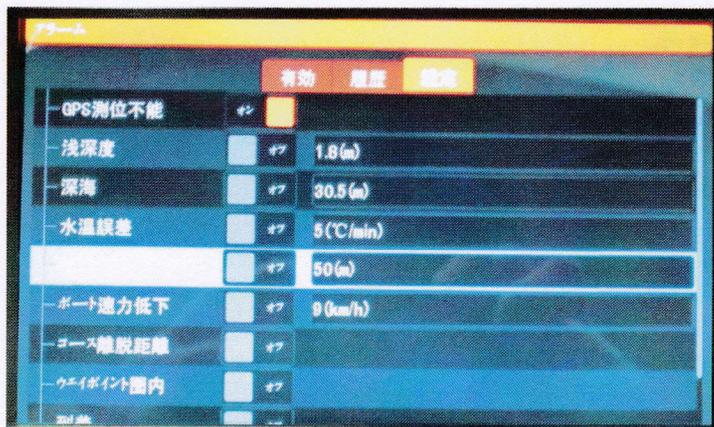
フリップは振動子を後ろ向きに装着したとき、画像を左右反転させます。レンジラインは中心から左右に向かって目盛りを追加します。パレットは使用されている偏向グラスに合わせて最も見易い色を選択して下さい。ビューは左右同時表示と単独表示を切り替えます。

チャートへのオーバーレイ

チャート画面のチャートオプションからストラクチャー画像を上書きできます。ストラクチャーオプションから透明度とコントラストを調整して下さい。

9. アラーム

パワーキーを押して、「設定」「アラーム」「設定」の順に開きます。上下矢印キーで項目を選択し、個別にオン、オフの切替ができます。「リミット設定」を選択するとキーボードが表示されるので、初期設定値を任意の値に変更できます。リミットを超えると履歴に残ります。なお警報音をオフにするとメッセージだけのアラームとなります。メッセージは緊急度に応じて、赤、オレンジ、黄色、青、緑で表示されます。



仕様

本体寸法	: HOOK2-5	186mm x 129mm x 115mm	(WHD)
	HOOK2-7	236mm x 164mm x 112mm	(WHD)
	HOOK2-9	287mm x 175mm x 115mm	(WHD)
	HOOK2-12	338mm x 216mm x 115mm	(WHD)
ディスプレイ	: HOOK2-5	対角 127mm	800 X 480 ピクセル
	HOOK2-7	対角 178mm	800 X 480 ピクセル
	HOOK2-9	対角 229mm	800 X 480 ピクセル
	HOOK2-12	対角 305mm	1200 X 800 ピクセル
消費電力	: HOOK2-5	12.2W	HOOK2-9 19.4W
	HOOK2-7	16.3W	HOOK2-12 25.8W
電源	: 12V DC (10-17v DC min-max)		
送波方式	: チャープ方式		
周波数	: 200Khz (魚探)		
		455/800Khz (サイド/ダウンスキャン)	
出力	: 400W (RMS)		
到達深度	: 魚探 152m	ダウン 80m	(条件により異なります)
GPS機能	: 3000ポイント	100ルート	100トレイル

10. メンテナンス

●必要最小限のメンテナンスについて

本器には定期的なメンテナンスを必要とする部品は使われていませんが、長期間、快適にご使用頂くため、必要最小限のお手入れをお願い致します。

ダッシュボードに埋め込んで使用される場合は、別売りのプロテクティブカバーを使用されると、紫外線により液晶パネルが劣化するのを防ぐことができます。

●ディスプレイのクリーニング

ディスプレイの表面に塩の結晶や砂が付着している場合は、真水の流水で軽く洗い流し、マイクロファイバークロスや柔らかいコットンクロスで叩くように拭き取って下さい。乾いた布で擦ると表面のコーティングが剥離したり擦り傷となりますのでご注意ください。

●ケースのクリーニング

洗剤を温水で薄め、柔らかい布を浸してから軽く絞った状態で、ケースの汚れを拭き取って下さい。研磨剤入りのクリーナーや、アセトン、シンナー、アルコールなどの溶剤はケースにダメージを与えるので使用を避けて下さい。

●コネクターの確認

コネクタは、ピンの曲がりを目視により確認して下さい。マリンでの使用は、塩の結晶が堆積するとピン間で絶縁不良となります。CRC等の潤滑剤を吹き付けてから良く降って潤滑剤を吹き飛ばす作業を数回繰り返すことで塩分を除去できます。

コネクタを脱着するときに、無理にこねるとピンが曲がる場合があります。曲がったピンの修正は特殊治具が必要ですので、弊社まで修理をご用命下さい。

●ケーブルの確認

電源ケーブルや振動子のケーブルは定期的を目視による検査を行って下さい。特に、振動子のケーブルは皮膜が破れると水分が侵入して絶縁不良を起こします。振動子のケーブルには高電圧が通電されるので、ショートすると本体の出力回路を破損しますので早めに交換して下さい。

●設定 データベース

オーバーレイやカスタムページ、感度設定などの記録はホームページ上部にある「ストレージ」を開き、設定 データベースよりメモリーカードに出力して下さい。

本体の不具合でハードリセットを行ったとき、メモリーカードから **Setting Set** をインポートするだけで簡単に復旧できます。

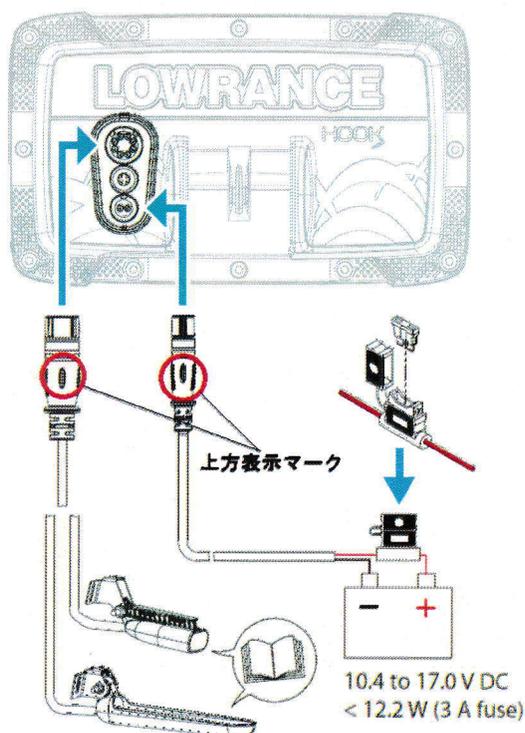
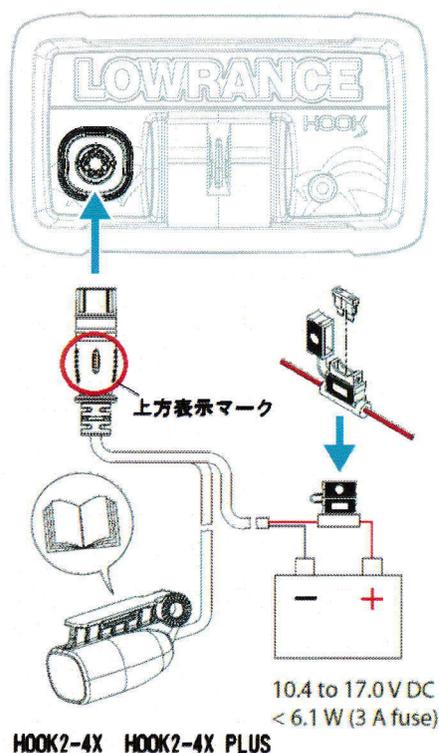
●スクリーンショット

トラブルを生じた時の画面をメニューキーとパワーキーの同時押しにより保存して下さい。ストレージのマイファイルからメモリーカードにコピーしてご報告下さい。

11. 設 置

この章は最後まで目を通して下さい。船体に穴開加工した後では取返しが付かない場合もあります。

1. 本体のおよその取り付け位置を決めて下さい。トランスジューサーや電源ケーブルをどのように引き回すか、どこを通すか計画できます。
2. トランスジューサーの およその取り付け場所と ケーブルの通し方を決定して下さい。
3. バッテリーの場所と他の機器との接続を決定して下さい。
4. トランスジューサーを固定してからケーブルを本体取り付け予定の位置まで 配線して下さい。
5. 本体の位置から電源まで電源ケーブルを配線して、極性をよく確認して電源に接続して下さい。
(赤がプラス、黒がマイナスです)
6. コネクターを 本体背面に差し込んでから、ブラケットに セットしてください。
本体をブラケットに固定したら、見易い角度に調整してからブラケットのロックレバーを引き上げて本体とブラケットをロックします。



●トランスジューサーの取り付け

HOOK2 シリーズには3種類の振動子が用意されています。

ブリット 200Khz 単周波の魚探専用振動子がブリットと呼ばれ、HOOK2-4X および HOOK2-4X PLUS に同梱されています。この振動子は電源コードと一体成形されていて上方表示のマークが真上になるように差し込みます。

スプリット 200Khz 単周波の魚探専用発信器と 455/800Khz 写真画質モードの発信器を内蔵するスキマー型振動子です。

トリプル スプリット振動子にサイドスキャン機能が追加された振動子です。HDS や Ti シリーズと異なり、HOOK2 シリーズはスプリットモデルにトリプル振動子を装着しても互換性がないのでご注意ください。

●取り付けに必要な工具と部品

船体やトランサムに穴を開けてコネクタを通す場合は 15mm のドリルが必要です。

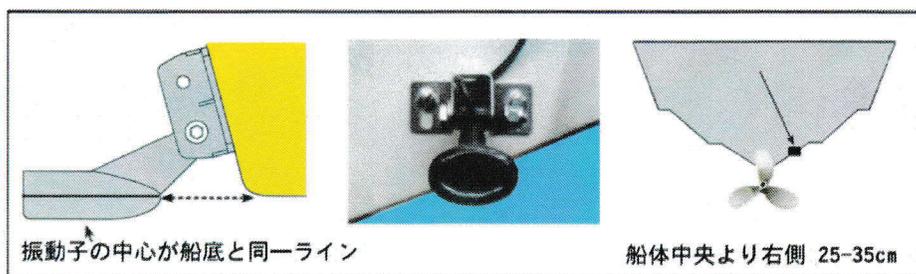
ブリット型/スプリット型をトランサム（船尾板）に固定する場合

開口部 11mm のスパナまたはモンキースパナ 2丁、3.5mm ドリル、大きめのマイナスドライバー
トリプル型トランスジューサーをトランサムに固定する場合

開口部 11mm のスパナまたはモンキースパナ 2丁、4mm ドリル、大きめのマイナスドライバー、別途に 5 x 2.5mm ステンレス木ねじ 4本を用意して下さい。

●取り付ける場所の選択

- トランスジューサーは全ての状況においてスムーズに水が流れる場所に取り付けなければなりません。船底内側から取り付けるときはボートがあらゆる姿勢の時も取り付け位置が水面下となる必要があります。水流がスムーズでないと タービュランスノイズや泡の巻き込みで、干渉縞や無数の斑点が現れます。
- トランスジューサー下面が可能な限り真下を向くように取り付けます。
- 船尾に固定する場合はトレーラー積載時に牽引金具やトレーラー車体に干渉しないかよく確認して下さい。プロペラが発生する キャビテーションノイズを拾わないようにするためエンジン固定部から 30センチ以内の場所もさけて下さい。
通常 トランスジューサーは ボートの一番深い所に装着されます。これはプレーニング中でも水面下に置かれる必要があるのと、気泡による干渉を減少させるためです。
- トランスジューサーのケーブルは、できるだけ他の配線から離して下さい。エンジン周辺の配線やビルジポンプ付近にケーブルが近接すると画面上にノイズを生じます。



●船底透過方式の取り付け

一般に トランスジューサーを 船底透過方式で取り付けると、到達深度が多少劣るものの超高速ですばらしい性能を発揮します。漂流物にぶつけてダメージを与えたりドック入りやトレーラー積載時に破損する心配がなくなります。しかし、この取り付け方にもいくつかの弱点があります。まず、理想的な位置に設置された場合でも船底を透過するときの感度ロスを生じます。同じボートでも取り付け部分の構造や材質によって減衰の度合いが変わってきます。2番目の問題として最良のフィッシュサーチを得るための角度調整ができなくなることです。トロールスピードと高速巡航時の姿勢変化の大きい船体では妥協点を見つけなければなりません。満足な結果を得るためには、最初から接着剤で固定せず、入れ歯固定材を使って何カ所か試してみることをお勧めします。理想的な動作が得られたら取り付け面をサンドペーパーで磨いた後、シンナーで脱脂してから微量の瞬間接着剤で仮止めします。周囲に油粘土で土手を作ってから長時間硬化型のエポキシを 40度位に暖めて流し込みます。なお、船底透過方式では、ダウンスキャンやサイドスキャンが使用できません。また、内蔵の水温センサーが使えなくなります。

●トランスサムへの取り付け

取り付け前に 部品を仮組みして トランスサムに当ててみて下さい。トランスジューサー下面が船底よりほんの少し下方に位置し 水平となるように取り付け可能であることを確認して下さい。陸揚げのときのダメージを防ぐため、トランスサム最深部でセンターを避けた位置に ステンレスブラケットが水平となるように押し当てて 穴開け位置をマーキングします。トランスジューサー下部が船底とフラットか少しだけ出る位が理想的な取り付け状態です。マーキング位置に 4 mm の下穴を開け、付属のビスにたつぷりとエポキシまたはコーキングを塗布してブラケットをネジ止めして下さい。国際的にトランスサムは 14 度の角度で設計されているので、ブラケットの打刻マークとプラスチックラチェットの A マークを合わせるとトランスジューサーを水平にセットできるはずですが、もし、水平にならないときは、B マークや、C マークで試して下さい。最後に取り付け図に従ってゴムワッシャーと平ワッシャーを通してからナットで締め付けます。

ナットと平ワッシャーの隙間がゼロになってから、さらに 90 度締めて下さい。締めすぎると水中の異物にぶつかったとき、トランスジューサーを破損します。ケーブルをしっかりクランプしておくことで高速で異物にぶつかった場合でもトランスジューサーが船内に飛び込んでくる危険を防ぐことができます。

●エレキへの取り付け

ブリットとスプリット振動子には、パーカークランプを通すための長穴を設けてあるのでトロールモーターの下に吊り下げることができます。

ステンレス製のパーカークランプ (アジャスタブルストラップ) を通してからマイナスドライバーでトロールモーターに締め付けます。余分のコードがプロペラに巻き込まれないように必ず要所をインシュロックでクランプして下さい。実際に本体を作動させたとき、画面左上の水深を示す表示が点滅を繰り返している場合は ビームが真下を向いていないことを意味するので正しく向くように再調整して下さい。無段階エレキのノイズが干渉するときはマウントリングとバッテリーのマイナス端子を電線で結線すると改善される場合があります。

●電気的接続について

このシステムは 12 ボルトの直流電源で 動作します。付属の 3 アンペアのヒューズとヒューズケースを組み立てて、赤リードをバッテリーのプラス側、黒リードをマイナス側の端子に接続して下さい。経年変化によってヒューズの金属部に酸化皮膜を生じると電流が流れにくくなります。CRC などの潤滑剤を吹き付けて、ヒューズを数回脱着すると、改善されます。

●本体の取り付け

バウデッキにブラケットを木ねじで固定して、盗難防止のために本体のみ持ち帰って保管するというのが一般的ですが、レンタルボートを利用される方は小型のアイスボックスにブラケットを取り付けて使用し、移動の時は本体をボックスに入れて運搬すると傷付けません。

大型ボートでダッシュボードにマウントする場合は、www.lowrance.com から機種に応じた型紙をダウンロードして下さい。ダッシュボードに型紙を貼りつけホールソーで四隅に穴を開けてから点線に沿ってジグソーで切り抜きます。やや内側を切り抜き、現物に合わせながらカッターで仕上げると上手に加工できます。全ての配線を終えて動作確認してから、本器の全面カバーを外し、4 本のスクリューで固定して下さい。

ハードリセット

発電機、トロールモーター、セルモーター起動時のノイズによって、本機のファームウェアにバグが混入すると、動作が不安定になったり、起動に障害が起こります。下向き矢印を押したままの状態電源を投入し、メニューキーを 6 回押すと、ソフトウェアの情報が表示されます。次に、エンターキーを押すと工場出荷時の状態にリセットされます。パワーキーを押して **Setting**、**Language** の順に開くと「日本語」を選択できます。「シミュレーション」は「いいえ」を選んで下さい。単位を m、摂氏、KPH{時速}にセットして下さい。

トラブルシューティング

ロランスは特殊透過膜による完全防水仕様ですから、日本製の非防水モデルと比較すれば桁違いの信頼性を誇っています。万一、ご使用中のソナーが異常な動作をするときは以下の項目に従って自己診断を実行してみてください。

●電源が入らない

1. パワーコードのコネクターがしっかり差し込まれていますか。コードとバッテリーの接続部が接触不良を起こしていませんか。
2. テスターがあればコネクターの出口で電圧を測定して下さい。デジタル回路は5 に安定化されていますが出力部は電池の電圧が直接印可されるので1.1V以下では正しく動作しません。
3. エンジンの発電機内部の整流器が故障すると高圧の交流電流を発生します。再起動やノイズが多い場合は、ここに精密機器をつなぐのはきわめて危険なので別バッテリーを用意して下さい。
4. ヒューズの頭が導通不良を起こしていませんか。サンドペーパーで軽く磨いてみて下さい。

●動作が途中で止まったり不安定

1. ボートのモーター、トローリングモーター、他の電子機器からのノイズが受信回路に干渉している恐れがあるので、コード類の取り回しを変更してみたり、原因と思われる機器の線を外して、症状に変化が見られるか確認して下さい。
2. トランスジューサーのコードが被覆が破れたり、つぶれたり断線していませんか。
3. トランスジューサーのコードや電源コードのコネクターが破損していないか、腐食していないか、しっかり差し込まれているか確かめて下さい。
4. ハードリセットにより、ソフトウェアを工場出荷時の状態に戻せます。

●反射波が弱い、水深表示が点滅をする、魚影が全く映らない

1. トランスジューサー底面が水底に対して垂直、あるいはスキマー型のとがった部分が水平方向を向いているか確認して下さい。時々、誤ってスキマー先端部を上に向けて取り付けられている例が見られます。貝、苔、泥が付着していると正常な動作ができません。
2. ボートの電装品からのノイズが大きいと、本機の内部で各種の除去プログラムが起動したり感度を下げます。これによって、弱い信号や底の詳細な情報が失われることがあります。
3. オートモードの状態ですぐに深くなっている領域に進行すると、一時的に反射波が得られなくなるのでエラーと判断することがあります。(左上デジタル表示が点滅します)レンジ マニュアルで、より深い深度設定を行うか電源を入れ直すと正常になります。
4. デジタル表示にして、動作電圧を確認して下さい。ヒューズや電源コードの接触不良が発生すると、電圧変動が大きくなります。電源が1.1V以下では正常な動作は望めません。

●高速で探知しなくなったり動作が不安定 スクリューを回すと信号が弱くなる

1. スクリューによって生じた渦流が原因となっています。トランスジューサーの位置を変更して全ての速度で画面スクロールが自動的に追従するところを取付けて下さい。
2. 原因が電装品の電気ノイズである場合は1台ずつ電源を切ってどの機器が発生源か特定して下さい。電源を別にしたり、トランスジューサーのコードを他の配線から離して下さい。